

## 地域包括ケア

# 黒潮町版システム進捗は まずは全庁的に理念共有を



はまむら みか 議員

### 答 大西町長

これまで各家庭や地域で解決していた課題が、少子高齢化、核家族化により課題解決が困難になってきている現実がある。介護等サービス利用のニーズは低下しないが、

大きな資源としてとらえ、それらを包括的に、横のつながりを持たせながら、地域住民の皆さんが自分の地域がどうあるべきかを考えられる機会を持つよう、時間はかかるが、各地域で理念の共有等の作業を行っていききたい。そのため、まずは役場内での共有ができ、地域に対して細かな説明ができるよう努めていく。

**問** 地域包括ケアシステムとは、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に重度な介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができよう、住まい、医療、介護と介護予防、生活支援が一体的に提供される仕組みをいう。黒潮町でも高齢化率が43・5%を超えたが、黒潮町版地域包括ケアシステムの構築に向けて、全庁的な取り組みを問う。

支える納税者は減少してゆく。今後は、リスクの多い専門的分野では専門職に、その一方、地域では誰かが誰かを見守り支え合うという仕組みづくりが急務である。その仕組みづくりの中心にはあったかふれあいセンターを置いている。

ゲートボールで健康づくり  
(下田のロゲートボール場にて)



## 安心安全生活

# 量販店閉店 交通事故対策は 状況調査し 対応を検討

**問** 健康な暮らしは、子ども、若者、高齢者、すべてにおいて、バランスの取れた食生活から考える。長年、わが町の生活を支えてくれた量販店が閉店した。そのことによる住民の生活の変化について、どのように把握しているか問う。

### 答 西村企画調整室長

5月末をもって閉店された量販店を利用されていた方は大変多く、食生活をはじめ、日常生活への影響は大きなものだととらえている。現在、福祉サービス利用者等への影響は、健康福祉課を中心に把握に努めている。他団体や、区長、民生委員の皆様からの情報もいただきながら、時間的経過とともに出てくる影響も含



ふれあいサロンにて  
反射神経の測定中です

また把握したい。以外でも、量販店に卸し、または仕入れの業者、従業員の皆様にも影響があると考えられるため、産業関連でも影響を調べ、状況によっては対応等も検討していく。

**問** 近年、高齢者による交通事故のニュースが絶えないが、わが町の交通事故軽減対策を問う。

### 答 徳廣情報防災課長

保育所、小学校では交通安全教室を実施。事故

発生危険性のある場所については、現地確認後、警察署、交通安全協会、国土交通省と協議しながら、カーブミラー設置、道路標識等の整備を行っている。

### 答 青木地域住民課長

地区サロン開催時に、役場担当者による運転免許証返納支援制度の説明や、交通安全アドバイザーによる認知機能の検査や、反射神経の測定を町内全域で実施している。昨年度の実績は、30地区で418名となっている。